

ふるさとの医療を担う!

2020年度 広島大学医学部

ふるさと枠のご案内

【広島県コース】



広島大学



広島県
Hiroshima Prefecture

地域医療を担う医師の育成について



広島大学長 越智 光夫

今日、我が国は、少子高齢化の急速な進展、総人口の減少など、大きな転換期を迎えています。こうした厳しい社会環境の中で、広島圏域では特に中山間地の地域医療を担う医師と特定の診療科の医師不足が深刻です。そうした中で、平成20年には「みんなで守ろう広島県の医療」緊急アピール」が発表され、平成21年から広島大学と広島県が連携して広島県での医療を担う人材を育てるため「ふるさと枠入試」を開始いたしました。

幸いにも平成21年に5名、平成22年から平成24年には各年15名、平成25年以降には各年18名と順調に優秀な学生が入学し、一般学生とともに充実したキャンパスライフを楽しんでいます。これまでに176名の方が入学し、そのうち68名が既に卒業され、現在、全員が県内の公的医療機関等で臨床研修や実地臨床に励んでいます。このふるさと枠で「診療科の選択の自由がない」とか「先進的な医療の勉強ができない」といったことはまったくありません。「総合医」や「専門医」になるのも基本的には自由です。広島県内で医療人として活躍したい、医

療を通じて社会貢献を果たしたいという方を広島大学は全力で応援します。

どうぞ奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

ふるさと枠をめざす皆さんへ



広島県知事 湯崎 英彦

広島県では、県政の基本となる4つの政策分野の一つとして、「安心な暮らしづくり」を掲げ、県内のどこに住んでいても、安心して必要な保健・医療サービスが受けられるよう、市町をはじめ、広島大学、医師会等の関係団体と連携しながら、地域医療の体制づくりを推進しています。

その中で、県内には、多くの中山間地域や島嶼部があり、過疎・高齢化や、人口減少が進む中で、地域の医療をどのように守り・支えていくかが大きな課題となっています。

広島大学におかれては、県内の地域医療を支える医師の育成を目的とする「ふるさと枠」制度を、平成21年度に創設されました。この制度によって、これまでに68名が卒業し、現在、臨床研修を修了した33名が、県内各地で勤務を開始しています。そのうち17名が、医師不足に悩む中山間地域の医療現場で活躍しています。

また、大学内に「地域医療システム学講座」を平成22年度に設置され、地域医療を学ぶ教育活動をはじめ、中山間地域で勤務する医師のキャリア形成への助言や支援なども合わせて進められるなど、県内の地域医療を担う医師の育成に精力的に取り組まれています。大学での学びはもとより、この制度を通じて育まれる絆や繋がりが、将来、県内の地域医療を支える大きな力として一層発展していくことを、心から期待しています。

是非、みなさんも、高い志と熱意を持って「ふるさと枠」を目指していただき、ご自身が描く将来像が、心身ともに充実した形となって実現し、地域医療への想いを共にする仲間とともに、本県の医療を支える力として活躍されるよう応援しています。

「広島地域医療を支えたい」という想いを、ふるさと枠でより確かな形にしませんか



広島県では、これまで多くの高校生が県内あるいは県外の医学部で学び、卒業し、医師となって広島県の医療を支えてきました。広島大学医学部は、広島から世界に広がる創造的な医学を標語に、地域を支える医療の担い手と世界に発信する医学の牽引者を育成しています。ふるさと枠は、地域医療への強い思いを持つ人を求めますが、求めるところは高い志と公共心です。広島に熱い思いを持つ人たちが、広く高度な医学、医療に挑戦されることを期待しています。

広島大学医学部長 秀 道広



広島大学医学部ふるさと枠は、県内の中山間地域等の医療を守るため、広島県と広島大学が一体となって、本県の地域医療を担い・支える情熱を持った医師を育てていく制度です。御存知のとおり、入学者は、卒業するまでの間、広島県から奨学金の貸与を受けられることとなりますが、その原資の多くは、県民の皆様から託された税金で賄われており、医師不足に悩む地域から大きな期待が寄せられています。

医療は、様々な専門職の役割分担と協力の上で成り立っていますが、中でも地域医療の現場では、住民の方々の生活に深く関わり、ご家族も含めて生活全般を支える医療を提供することが求められることから、福祉・介護分野等とも連携して、地域全体で支えていく中心的な役割が期待されます。

その役割はとても大きいものであり、地域の期待に応える医療を担うことは、将来の糧となる貴重な経験とやりがいがあるものと考えています。

県としても、地域医療を志す皆さんの熱意や希望に対して、しっかりと支援していきます。ふるさと枠での学びや経験を通じて、将来、地域医療を担う医師として成長され、地域の期待に応え、大いに活躍されることを心から願っています。

広島県健康福祉局長 田中 剛

2009年の制度開始から現在まで、**68名**の卒業生を輩出しています

各学年**20名**の学生が在籍中です(うち岡山県枠各学年2名)

2015年～2019年のふるさと枠医師国家試験合格率は**95.8%**です
(広島大学医学部医学科は90.0%です)

卒業後は、毎年**同窓会**で絆を深めます



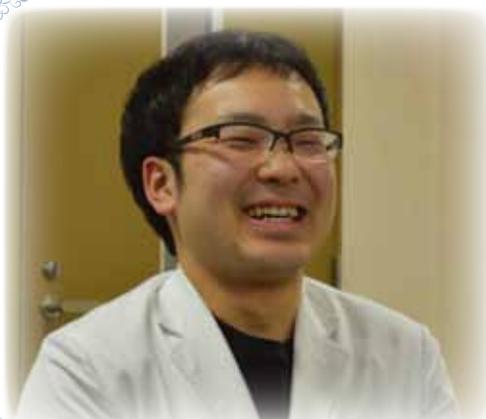
安芸太田病院 循環器内科 大澤文乃
(1期生 2015年卒)

私は循環器内科医として庄原赤十字病院で2年研修をした後、現在は安芸太田病院と安佐市民病院で勤務をしています。安芸太田地区の方々からの期待をひしひしと感じ、ふるさと卒生に対する周囲の注目を日々実感しています。注目度が高い分責任も感じておりますが、繋がりのある自治医科大学の先輩先生方と一緒に働くので、不安は軽減されています。ぜひ熱意と責任感のある学生さんに受験してほしいと思います。



広島市立安佐市民病院 循環器内科 小島啓史
(1期生 2015年卒)

医師5年目を迎え、現在は循環器内科医として勤務しています。我々の意見を十分に受け入れていただいたキャリアプランを歩み出して、地域で働きながらそれぞれの科の専門性を高めつつ高齢者医療、全人的医療の実践に取り組んでいます。ふるさと卒卒業生の医師も増え、地域医療あるいは県全域の医療におけるふるさと卒の重要性・意義を年々強く感じるようになりました。みなさんもその一員として一緒に働いてみませんか。



JA吉田総合病院 外科 唐口望実
(1期生 2015年卒)

私は、ふるさと卒出身の医師ということを特別に意識することはありません。しかし、中山間地域の病院で働くに当たり、大学生時のふるさと卒の実習等を想起してモチベーションをもちやすいかもしれません。どんな地域でも必要とする人がいるから病院があり、医師を求められます。都市部に比べて医療のレベルはやはり限られますが、限られた環境の中で質の良い医療を提供することを常に考えながら診療にあたることは非常にやりがいを感じます。



広島大学病院 病理診断科 神原貴大
(2期生 2016年卒)

ふるさと卒では広島県の医療への理解を、地域医療を中心に広い視点で深めることができます。自分の将来像を具体的に思い描きやすいため、医師として広島県の医療に関わりたいけれど思いばかり先行して不安だ、という方にこそお勧めです。私は講義や実習の経験も踏まえ、中山間地域同様に医師不足が続き、知事指定診療科となっている病理診断科の医師として県の医療を支える道を選びました。病理診断科では患者さんの診療と密接に関係する病理診断や、病気の本質と向き合う研究、あるいは病理解剖をおこなっており、興味の尽きない領域であると私は実感しています。医師としてどのように広島に関わりたいか、ふるさと卒でじっくり考えてみませんか?同志として働ける日を楽しみにしています。

市立三次中央病院 産婦人科 張本姿 (3期生 2017年卒)

私は、現在市立三次中央病院で産婦人科医として勤務しています。私自身は出身が広島市内で、田舎暮らしを全く経験せずしてふるさと粋で入学したため、中山間地域での暮らしに不安な面もありました。しかし三次に来てまだ日は浅いですが、周囲の人は皆さん優しく、田舎での生活のアドバイスなど親身になって教えてくださり、現在とても楽しく過ごしています。「ふるさと粋の子が来てくれるから、うちの病院は若い先生も多くて活気づいてるよ」なんて素敵な言葉を頂くこともあり、日々やりがいを感じながら働くことができます。

広島市立舟入市民病院 小児科 谷本綾子 (3期生 2017年卒)

私は舟入市民病院で小児科医として勤務しています。小児のcommon diseaseを中心に幅広い疾患を経験させていただいているので、この経験を将来中山間地域での勤務に活かしていきたいと思っています。小児科医はこどもの言わばgeneralistですが、困った時に相談できる仲間が他科にいるのは非常に心強いです。ふるさと粋は縦、横のつながりがあり、多方面で活躍している仲間ができるという強みがあります。ぜひその仲間に加わりませんか？

東広島医療センター 整形外科 角悠司 (3期生 2017年卒)

実際に地域ではまだまだ医者が足りてないと感じることがあります。私は整形外科という道を選び、手術や外来を通じて少しでも患者さんの生活に寄り添えるよう心がけて働いています。専門性を持ちつつ、総合的に診ることのできる医者を目指したいと考えてます。

キャリアプランも多くの選択肢があり、卒業生は各々が希望する科に進み各地で活躍しています。ぜひこれから一緒に広島の医療を盛り上げて行きましょう。皆様の活躍をお待ちします！

JA尾道総合病院 初期研修医 森本皓大 (5期生 2019年卒)

私はJA尾道総合病院で初期研修医1年目として働いています。卒業するまではふるさと粋だと制度の面で卒業後の研修が同様にできるか不安はありましたが、働き始めると他の研修医と同じように研修できています。研修医としてまだまだ分からないことだらけですが、地域医療に貢献できるように日々頑張っています。一緒に地域医療を支える一員になりましょう！

みなさんの学生生活を応援します!



当講座は平成22年度に広島県の寄附講座として設置されました。

ふるさと枠の学生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、また卒後の進路に夢を持てるようにすることが大きな目的の一つです。ふるさと枠というのは比較的新しい制度ですので、皆さんの不安が起こらないように、一人一人の思いを聞きながら支援したいと考えています。

入学後から定期的にミーティングをしながら、たくさんの企画を準備しております。広島県の地域医療を引っ張っていただけるような人材に育てていただきたいと思います。

地域医療システム学講座 教授 松本正俊

年間スケジュール



夏実習



ふるさと枠では、1年生から地域の病院や診療所に行って実際に地域医療の現場に触れ、学ぶことができます。早いうちから自分の将来働く現場を見ることで具体的に将来について考えることができ、勉強のモチベーションにもつながります。また、縦のつながりが強く先輩にいろいろなことを気軽に聞けるのもふるさと枠の良さだと思います。

医学科5年 平松奈奈

ふるさとセミナー (ふるセミ)



ふるさと枠の学生は、週に一度、ふるさとセミナー(通称"ふるセミ")に参加することになっています。そこでは、班に分かれて、先輩方が様々な企画を用意してくださいます。また、縦割りの班になっているので、多くの先輩と仲良くなれます。地域医療についてなどの知識を得ることができ、先輩方とも交流できるこのセミナーを、僕は毎週とても楽しみにしています。

ふるさと枠のメンバーは皆、優しくてステキな人ばかりです。みなさんも是非、ふるさと枠で共に高め合っていきましょう!

医学科2年 本多晃嗣郎



追いコン 春実習

追いコン



冬合宿



ふるさと枠の魅力はなんといっても夏・冬・春の地域医療実習や、ふるセミ(毎週水曜日に行われる昼食会)だと思います。地域医療についての知識を深めることができ、さらに地域医療の行われている場所で実際の現場を知り、体験することが出来るというのは、将来のためにも、今の自分にと

てもかけがえのない経験だと考えるからです。地域医療実習のひとつである冬実習では、地域医療の現場で働く医師の方や、ふるさと枠出身の先生から、地域医療の現状や現場の様子などを伺うことができます。また、1年生から4年生までが参加する実習なので他学年のふるさと枠の人々と仲を深めることもできます。このような貴重な体験が得られるのはふるさと枠ならではです!ぜひ、充実した有意義な学生生活をふるさと枠で送ってみませんか??

医学部2年 谷菜穂

その他に...



- 面談
(1年生、4年生、6年生)
学生1~2名と教員1~2名で
学業のこと、大学生活やバイトのこと、
進路のことなどをお話します。
- 進路説明会
(4年生、5年生)
臨床研修マッチング制度や臨床研修
後のキャリアプランについてお話し
します。



- 同窓会・面談
卒業生が近況を報告しあいます。卒
業生と大学教員の面談も行います。
- 新歓コンパ
- 追いコン





医学科6年 升賀由規

「ふるさと枠」の良いところは、セミナーや実習を通して多くの先輩と仲良くなれるところだと思います。部活やサークルだけでなく、「ふるさと枠」の多くの先輩と知り合えることはとても心強く、大学生活がより楽しくなること間違いありません。地域医療という同じ目標をもった仲間と一緒に、もっと「広島県」と「地域医療」について学んでみませんか？

ぜひ「ふるさと枠」で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



医学科5年 池田駿

大学生になって大切なことは何かに打ち込むこと、人との関係性を増やすことの2つなのですが、ふるさと枠では両方とも成し遂げることができます。ふるさと枠では地域医療を学ぼうと考えている人に様々な機会や場を提供してくれますので、働く前から地域医療への意識を高めることに打ち込めます。

さらに特に後者においては、1学年20人がいて6学年で120人、他にも卒業された先輩やこれからさらに自分たちの後輩になっていく人たちも含めるとすごい数になっていくのでとても多くの人との関係性が出来ます。

どうでしょう？ふるさと枠の一員になりたくなくなってきませんか？来年、ふるさと枠のメンバーとして会えることを楽しみにしています！



医学科4年 塚原一樹

僕がふるさと枠での活動を通して最も得られたものは『人とのつながり』です。

毎週水曜日に行われるセミナーや夏と冬の実習の縦割り班での学習・ディスカッションを通して、ふるさと枠の先輩・後輩との『つながり』ができます。さらに、夏の実習では実際に中山間地域や島しょ部の医療機関へ行き、見学し、その医療機関の方々との交流会に参加することで、地域医療を担う大先輩との『つながり』もできます。僕はこの『つながり』が将来、医師として地域で働くことにおいて重要なものだと思っています。

皆さんもふるさと枠で広島の地域医療を支える『つながり』の輪に加わりませんか？



医学科3年 伊藤大起

ふるさと枠の魅力の一つとして、夏季長期休暇中に行われる地域医療実習が挙げられます。この実習ではふるさと枠の先輩後輩とともに地域の中核病院や診療所に足を運び、地域医療を直接肌で感じることが出来ます。医療現場に赴くことで日々の勉強のモチベーションが上がることは間違いありませんし、学年を重ねるごとに知識も増えより楽しい実習となるでしょう。現地の医師や医療スタッフとの懇親会も行われ、おいしい食事をいただきながら地域医療現場の生の声を聞くことが出来るのもこの実習の利点です。

ふるさと枠の生徒は個性豊かな仲間たちばかりで、地域医療実習を含めふるさと枠の集まりは楽しみなものばかりとなっています。ぜひ一緒に実りある経験をしましょう！

医学科6年 岡嶋瑠那

はじめまして。私は今年で卒業しますが、この6年間でふるさと枠でしか学べなかったこと、ふるさと枠でしか出会えなかった人との出会いがたくさんありました。ふるさと枠は特殊な枠なので全ての人に勧められるわけではないかも知れませんが、地域医療に興味がある人にはぴったりだと思います。多くの志を同じくする先生方、先輩、後輩、そして同級生に囲まれて過ごす6年間は地域医療に貢献する医師となるために必要なかけがえのない経験を与えてくれます。ぜひふるさと枠に入学して一緒に地域医療を試みませんか？



医学科4年 大野真実

毎年8月に行われる夏実習は、ふるさと枠の最大の特徴でありました魅力でもあります。広島大学や自治医科大学等の1~4年生が縦割り班になり、一泊二日で医療機関での実習にあたります。この実習はただ病院見学をするのではなく、実際に利用している方の生の声を聞き生活に触れ、地域の雰囲気を感じ、医療を支えている方の思いを知ることが出来ます。地域を丸ごと感じとる事は、将来地域医療を担う私達にとって大きな学びになります。



医学科3年 村上真央

私は、ふるさと枠で入学したことにより、縦のつながりが本当に広がったと感じています。医学科は大学生活を送る上で、勉強をはじめ、やらなければいけない事が多くあり、なかなか学年を超えてのつながりを作る時間や機会が持てません。しかし、ふるさと枠では、毎週ふるさとセミナーの際に、学年を超えて、お弁当を食べながら、話をする機会が設けられています。ふるさとセミの場は、とても話しやすい雰囲気になっているため、上級生とでも気軽に話すことができます。この文章を読んでいる皆さんと、来年の春、また新たなつながりが持てる事を、楽しみにしています！



知事の指定する中山間地病院

※県内の公立診療所も知事の指定する医療機関に含まれます。



庄原赤十字病院



西城市民病院



市立三次中央病院



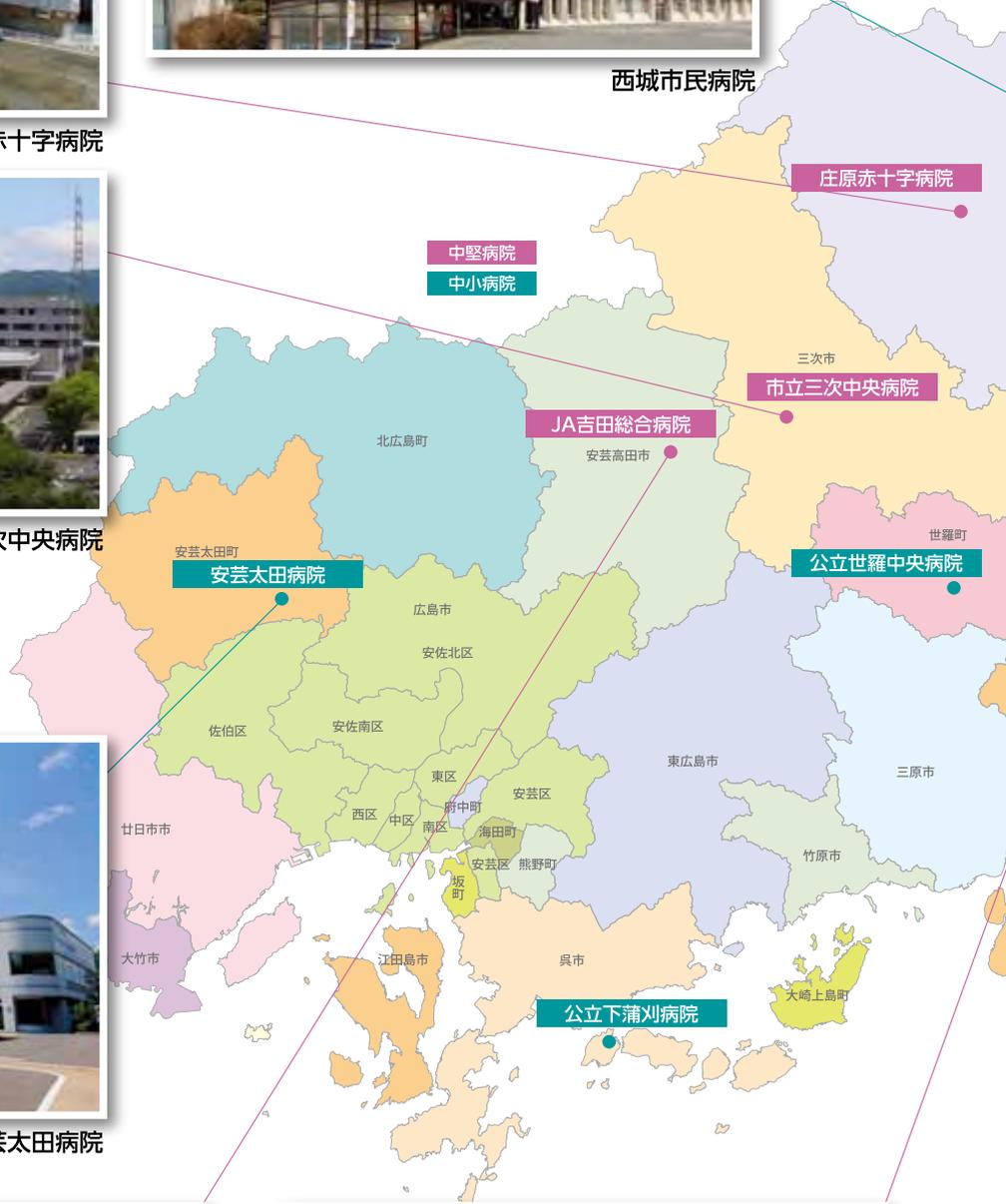
安芸太田病院



JA吉田総合病院



公立みつぎ総合病院



進路に関する基本指針

臨床研修は広島大学病院を基本とします(広島県内必須)
 卒後3年目以降は広島大学各診療科への入局を原則とします
 中山間地の4年間は総合医を原則としますが医療機関からの要望があれば
 専門科医として勤務します



広島大学病院



令和元(2019)年度ふるさと卒医師勤務状況(卒後3年目以上)

専攻診療科名等	中山間地域指定医療機関										小計	※中山間地域以外の医療機関	計	
	中堅病院				中小病院									
	公立みつぎ総合病院	市立三次中央病院	庄原赤十字病院	JA吉田総合病院	公立下蒲刈病院	府中市市民病院	府中北市民病院	府中市湯が丘病院	西城市民病院	安芸太田病院				公立世羅中央病院
総合内科・総合診療科									1			1		1
消化器・代謝内科		2	3									5		5
腎臓内科													1	1
脳神経内科													2	2
循環器内科		2	2							1		5	1	6
原医研血液・腫瘍内科													1	1
小児科													1	1
消化器・移植外科				1								1		1
原医研腫瘍外科													2	2
整形外科													1	1
産科婦人科		2										2	1	3
放射線診断科		1 内科										1		1
麻酔科		1										1		1
救急科													2	2
リハビリテーション科	1											1	2	3
病理診断科(知事指定診療科)													2	2
計	1	8	5	1					1	1		17	16	33
(参考)平成30年度勤務状況		5	5									10	9	19

※中山間地域以外の医療機関

広島市民病院(広島市)、広島赤十字・原爆病院(広島市)、舟入市民病院(広島市)、広島大学病院(広島市)、県立広島病院(広島市)、広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院(広島市)、安佐市民病院(広島市)、安芸市民病院(広島市)、福山医療センター(福山市)、福山市民病院(福山市)、広島県立福山若草園(福山市)、中国労災病院(呉市)、呉医療センター(呉市)、済生会呉病院(呉市)、三原赤十字病院(三原市)、尾道市立市民病院(尾道市)、JA尾道総合病院(尾道市)、済生会広島病院(坂町)、広島西医療センター(大竹市)、JA広島総合病院(廿日市市)、東広島医療センター(東広島市)、賀茂精神医療センター(東広島市)、県立安芸津病院(東広島市)、広島県立障害者リハビリテーションセンター医療センター(東広島市)、広島県立障害者療育支援センターわかば療育園(東広島市)

※赤文字は現在勤務中の医療機関です。(2019.06現在)

ふるさと卒医師の育成に関わる先生方より



庄原赤十字病院は現在までに、6名(一期生から三期生まで2名ずつ)のふるさと卒出身の医師を受け入れています。そのほとんどの医師たちはこう言っています。「学生時代や初期研修医の頃には、自分自身のスキルやキャリアについて心配があった。」「今は医師としての力が日々進歩し、専門的な研修も十分にできているので毎日が楽しいし、不安もない。」

実際に彼らと一緒に仕事をして感じるのは、臨床医としての喜び・期待・さらに自己を高めたいという熱心さです。ふるさと卒であるということは、何らかの縛りではなく病院からさらに視野を広げていく、より前向きなツールとして作用しています。

充実した高いレベルの専門研修、いろいろな科の医師たちとの密度の濃い交流、そして臨床医として最も大事な医療者としての基礎を学ぶ毎日。当院のふるさと卒出身者たちは、まさにその中で日々成長しています。

庄原赤十字病院 院長 中島浩一郎



2009年にふるさと卒制度が立ち上がり10年が経ちました。それまで地域医療の現場の楽しさを医学生や若い医師に十分に伝えていなかったことを反省とし、その楽しさや仕事のやりがいを伝えるべく、日々奮闘しています。

地域医療は、プライマリーケアそのものであり、各科を超えたさまざまな疾患の初期診療、救急医療、生活習慣病などの慢性期医療、終末期医療、高齢者医療、在宅医療、介護問題、地域連携などなど、その内容は多岐にわたり、医師として大変やりがいのある、魅力ある仕事です。医師としての根源的な喜びを味わうことのできる現場といってもいいかもしれません。また、地域医療はその地域を活性化する一躍を担ってまいります。「ふるさと卒」の仲間地域医療をもっともっと楽しく、魅力あるものにしてゆきましょう。

神石高原町立病院 副院長 服部文子



「広島大学ふるさと卒業医師に係るキャリアプラン」について

「広島大学ふるさと卒業医師に係るキャリアプラン」は、卒業生の能力の向上や、目指す診療科の専門医認定が得られるように、勤務先やローテーション方針等を定めた標準的な育成計画です。

卒業生は、必要従事期間が終了して奨学金の返還免除を受けるまでの間、このプランに沿って県内の地域医療に貢献しながら、併せて能力の向上を図ります。

《キャリアプランの概要》

1 ふるさと卒業医師の所属

卒業生は、初期臨床研修(2年間)修了時まで、次のコース(①～③)のいずれかを選択します。

選択コース		補足等
A	広島大学病院 各診療科等所属コース	中山間地サブコース(①)
		知事指定診療科サブコース(②)
B	地域専攻コース ※個別の診療科への所属を 希望しない方	中山間地サブコース(③)

補足等
 下記以外の診療科(26診療科※1)
 (診療科毎の標準的なプランを用意)
 病理診断科(標準的なプランを用意)
 「広島大学地域医療システム学講座」及び
 「広島県地域医療支援センター」がサポート
 して具体プランを作成

2 中山間地域指定機関での勤務について(配置ガイドライン)

- 中山間地域等指定機関を「中堅病院」(4機関)と「中小病院」(9機関)に分類※2(P.11表参照)し、中山間地域での4年間の勤務のうち、「中小病院」には、原則2年、少なくとも一年以上は、常勤として勤務します。(知事指定診療科サブコース(②)選択者は除く。)
- 中山間地域での勤務は、総合医(総合診療医・一般内科医・一般外科医)としての勤務を原則としますが、中山間地域指定機関から要望がある場合は、専門科医として勤務します。

【例】広島大学病院・中山間地サブコース(①)「総合診療科」標準的キャリアプラン

卒後年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務先等	初期臨床研修 (県内指定機関)		大学病院	中山間地の 中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の 中小病院 内科・総合診療科勤務	大学病院 社会人大学院入学(希望者) 総合診療専門医試験	中山間地の 中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の 中小病院 内科・総合診療科勤務 内科専門医試験(希望者)	関連病院(指定機関) 内科・総合診療科勤務	[必要従事期間終了]		

(大学院入学年度は、希望に配慮)

(注)中山間地サブコース①の診療科の構成(※1)や、中山間地域等指定機関の分類(※2)は、後年において変更となる場合があります。

「広島県医師育成奨学金」について(概要)

(広島県健康福祉局医療介護人材課)

- 広島大学医学部ふるさと枠へ入学された方は、大学在学中の6年間に、広島県から「広島県医師育成奨学金」の貸与を受けることとなります。
- 大学卒業後から一定の期間、県内の地域医療を守るための指定医療機関での勤務を行うことで、奨学金の返還は全額免除となります。
- 県内での勤務は、「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」(P13参照)に沿って行っていただきます。

- ◆ **貸付額** ◆ 月額20万円(6年間の総額:1,440万円)
※奨学金の貸付けには、貸付日の翌日から、貸付期間の終了月の末日(6学年の3月末日)までの日数に応じて、民法で規定する法定利率で計算した利息が付きます。(H31.4月現在の法定利率:年5%)
- ◆ **貸付期間** ◆ 6年間(通常の修業年限の期間)
- ◆ **返還免除** ◆ 大学医学部の卒業後から12年間(貸付期間の2倍に相当する「返還猶予期間」)までに、別に定める基準(キャリアプラン)に沿って、次の要件1・2を共に満たすことで、奨学金(利息を含む)の返還が、全額免除されます。

【要件1】

貸付期間の1.5倍に相当する9年間(必要従事期間)を、知事が指定する広島県内の公的医療機関等※1において医師の業務に従事する。

【要件2】

上記9年間(必要従事期間)のうち、4年間(広島大学病院等県内での初期臨床研修2年間を除く)を、次の①・②のいずれかで従事する。

- ① 知事が指定する県内の中山間地域等の公的医療機関※2(P.11表参照)
- ② 公的医療機関等の知事が指定する診療科(病理診断科※3)

※1、※2、※3については、今後、規則改正等により変更となる場合があります。

《上記の要件を整理すると、次のとおりです。》

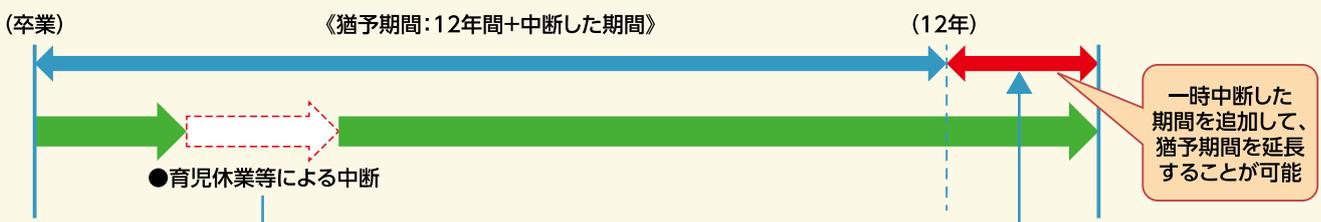
- ◎ 貸付期間:6年間
- ◎ 返還猶予期間(免除要件の履行期限):卒業後12年間
- ◎ 必要従事期間(9年間):県内初期臨床研修(2年)+県内公的医療機関(7年、うち①又は②が4年)

卒後年	-	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務等	(6学年)	初期臨床研修(2年) 【県内指定機関】		3~12年目の10年間で、7年間は県内公的医療機関等で勤務、そのうち4年間は、中山間地域等の指定機関(又は7年間は指定診療科)で勤務(任意の3年間を使って、県外研修や留学などの機会を得ることが可能)									

※卒業後の県内勤務は、「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」に沿って行います。(P.13参照)

◆その他◆ ※出産・育児等による勤務中断の取扱い

出産・育児(又は家族介護)を理由として、指定医療機関での勤務を一時中断(休業・離職等)した場合は、本人の希望に応じて、当該中断等した期間を返還猶予期間に追加(猶予を延長)することができます。



Q&A 広島大学ふるさと枠の学生は、他の学生と違う学部教育を受けるのですか。

全ての授業・実習から、地域医療実習を含む臨床実習に至るまで、全く同じ内容を学習します。それとは別に、ふるさと枠学生を対象としたプログラムがあり、定期的なミーティングや休暇中のセミナーなどを実施します。ふるさと枠学生に対しては、在学中に積極的に国内外での見聞きを広め、クラスを引っ張っていく存在になれるよう、指導致します。

Q&A 広島大学ふるさと枠の卒業生は、自分の行きたい「科」を選ぶことが出来るのですか？

「広島県医師育成奨学金制度の概要」に記載してある返還免除の条件2の①には、自分が将来目指す「科」について、特に制限は書かれていません。ただし、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますので、研修中は、原則として総合医としての修練が必要です。これらの総合医としての経験は、その後総合医としてキャリアを歩む場合はもちろん、専門医を目指す場合も本人の一生の財産となります。

Q&A 広島大学ふるさと枠の卒業生は、いわゆる「専門医」を目指すことは出来るのですか？

「広島県医師育成奨学金制度の概要」の返還免除の条件2の②に「知事が指定する診療科」という文言があります。これはまさに「専門医」に該当します。つまり県が「深刻な医師不足」と判断した科であれば、その科を選択することができ、その場合、勤務地は中山間地に限定されません（現在は病理診断科が指定されています）。次に「知事が指定する診療科」に行かない場合、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますが、中山間地域勤務期間終了後、専門医を目指し始めることは問題ありません。また中山間地域勤務期間中も、広島大学の地域医療システム学講座と連絡をとりつつ、目指す専門医に関わる広島大学の診療科に所属し、将来の専門医取得に向けて準備を始めることが出来ます。ほぼすべての診療科がふるさと枠卒業生のためのキャリアプランを用意しています。

Q&A 9年間は、先進的な医療技術の勉強ができないのではないですか？

そのような心配を聞きますが、大丈夫です。まず、「総合医」を目指す場合、広島大学の地域医療システム学講座・総合診療科をはじめとした全診療科・卒後臨床研修センター、県立広島病院を中心とする県内の公的医療機関等が支援し、最先端の「総合医」を育成します。次に「専門医」を目指す場合、広島大学の診療科が中心となって全面的にバックアップします。今後、情報回線を利用したテレ・メディスンも発達し、その活動を支えます。この「ふるさと枠」は、私たち納税者・県民によって支えられる制度であり、総合医であれ専門医であれ、広島で活躍する優秀な医師を輩出することを目標と考えています。

Q&A 予想されるコースについて実例を挙げていただけますか？

例えば、「初期臨床研修（県の指定医療機関）2年間」→「県内の公的病院3年間」→「県の指定する中山間地域等の公的医療機関等4年間」といったコースが実例として挙げられます。すなわち一般医学科生と大きな違いはないのです。

入試情報

医学部医学科推薦入試「ふるさと枠」に関する入試情報は、広島大学のホームページをご覧ください。
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi>



広島大学

入試に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3
担当: 広島大学霞地区運営支援部学生支援グループ (医学部担当)
電話: 082-257-5049

その他ふるさと枠全般に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3
担当: 広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座
電話: 082-257-5894
<http://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html>



[広島大学地域医療システム学講座](#) 🔍



広島県 Hiroshima Prefecture

奨学金制度に関するお問い合わせ

〒730-8511 広島市中区基町10-52
担当: 広島県健康福祉局医療介護人材課
電話: 082-513-3062



[広島県医師育成奨学金](#) 🔍